

昭和 42 年度
(1967)

厳冬期北葛尾根および七倉尾根から針ノ木岳

昭和 42 年 12 月 26 日～1 月 10 日

北ア後立は厳しかった。天候といい積雪量といい……

沈殿日数は最大限使用し、石油の使用量も最後の一滴を使い切って下山した。常に余裕をもってリーダーシップを確立するという点で自分は深く反省している。しかしながら、全員の意欲と体力を最大限生かせた合宿と言って良いだろうと思う。特に一年生にとっては長い 13 日間であったと考える。細かい点を数えれば色々不満足な点がある。

気のゆるみによるスリップ事故が多かったのも考えさせられる点だ。たいした事にもならず運がよかったという事は大切だが、それらに対して、これからは絶対に起こさぬ様各自の内に止めていて欲しい。

悪天候、そして、凍傷にかかった者が多かったという事では、個人の体質もあるだろう。しかし、各自の小さな注意、ちょっとしたズクでならず済んだのではなかろうかと思う。

アイゼンテクニックに関する考え方として、冬山に於いて習得しようとするのは間違いである。冬山以前にプレ冬山として、アイゼンテクニック、特に荷をかついでの講習をすべきであろう。

天気図の判読、作成に充分なる勉強をしていない人がいた事は残念である。等圧線の引き方によって、その日の行動が決まる場合もありえるのだから。それに短波の放送による上層天気図の作成に対して研究してもよいと思う。

入山直前にメンバーの変更がおこなわれたが、身体検査に対する点が甘かった事を反省している。事前に検査を行ない、余裕をもって計画変更にあたるべきであった。特に内臓の病気は自覚症状に気付きにくいので、普段から自分の体に注意し、部としてもチェックしておく必要がある。

入山前日の混乱はいつもの事であったが、作業の分析と人員の効果的な配置に関して考えてゆく必要がある。

最後に、各人が冬山に対して十分な認識をもって入ったとは考え難い。下級生はもっと上級生と話をし、その考え方やり方を理解してゆかなければならない。その基礎は、部として考えてあり、後は各人がそれを生かすかどうかである。そうすれば少なくとも腹を立てた回数が 1/2 になっていたのではないかと思う。

CL 内藤 精二

参加メンバー

CL 内藤精二 SL 村田譲治

岡村知彦 福原正昭

装備係 猪飼啓之 佐藤正敏

食料係 山下泰弘 寺沢三男 井口隆夫 中田法子 牧田敦子

医療係 井関芳郎

気象係 笠原敬一
 渉外係 武藤一郎 山田正弘
 会計係 寺沢三男
 梱包係 山田正弘
 記録係 武藤一郎

七倉尾根隊

L 内藤精二 福原正昭 山下泰弘 武藤一郎 井口隆夫 佐藤正敏 中田法子 牧田敦子
 北葛尾根隊

L 村田譲治 岡村知彦 寺沢三男 山田正弘 猪飼啓之 井関芳郎 笠原敬一
 蓮華岳東尾根隊

L 武藤一郎 福原正昭 井口隆夫 井関芳郎 笠原敬一 佐藤正敏 中田法子 牧田敦子
 縦走隊

L 内藤精二 岡村知彦 村田譲治 山田正弘 猪飼啓之 寺沢三男 山下泰弘

七倉尾根隊行動記録

12月26日 松本＝北葛温泉＝七倉～七倉尾根上、鼻突き八丁手前 1,900m 付近 TS (C1)

七倉尾根取り付きにデポ、女子部員に福原が付き添い、他の者は先行。

取り付きデポ回収。ラッセルは殆ど無くスパッツで行動。

12月27日 C1～鼻突き八丁～森林限界より二つ目の台地 2,400m 付近 TS (C2)

デポを残す。ラッセルにしごかれる、時としては腰以上にもなる。

12月28日 内藤、山下で七倉のコルまで偵察、風雪で早々にテントに帰る。

他の者はデポ回収。

12月29日 沈殿

12月30日 C2～七倉岳～北葛岳 TS 北葛尾根隊と合流

七倉岳のピークにデポ。稜線は厳しくフィックス3回、コルへの下りのフィックス使用中にスリップ事故、幸い事なきを得る。

(注) 鼻突き八丁…胸突き八丁より急傾斜であるとの意味か？

北葛尾根隊行動記録

12月26日 松本＝北葛温泉＝北葛尾根取り付き～TS (C1)

取り付きにデポ。最初から急登にブッシュととても厳しかった。やっと鳩峰までの1/3を登った。上部偵察。取り付きデポ回収。

12月27日 C1～焼山～鳩峰 TS (C2)～P5 (偵察、デポ)

シャクナゲのブッシュは焼山まで続く、テントサイトに可能な場所は鳩峰の少し下まで全く見当たらない。

12月28日 C2～P3無名尾根 JC に TS (C3)

猪飼、寺沢で C1 デポ回収、他の者は C3 まで行き、P5 のデポ回収。

ラッセル膝から腰ぐらい、倒木多くしごかれる。

12月29日 C3～P2～P1～P1 上部 TS (C4)

P2からは風も強くラッセルも深い。12時頃より地吹雪、雪も降り出す。

北葛尾根上部の強風のため、凍傷になった者が出て急ぎ幕営する。

12月30日 C4～北葛岳 TS (両隊合流)

山田、寺沢、笠原で C3 デポ回収、他の者は北葛岳 TS まで荷揚げ2回。

その後、村田、岡村は七倉隊サポート。

聞きしに勝る素晴らしい尾根で計画行動予定を狂わされた。これは偵察の甘さから、予定判断をつけにくかったこと。又積雪が少なく、やせ尾根であり、その上ブッシュ、倒木という条件等で、テントサイトが限られたことからである。

天気は良くなかったが、それ程ひどく崩れないし樹林帯であることから、オールウエザー行動を取り、北葛岳ピーク予定日合流を目指し努力した次第。皆の体調は良かったが、今ひとつファイトに欠けていた面もあった。 SL 村田 譲治

合流隊活動記録

12月31日

七倉岳デポ回収隊 L村田、猪飼、武藤

針ノ木峠デポ隊 L内藤、福原、岡村、山下、寺沢、山田、佐藤、井関、井口、笠原

11:30頃、針ノ木峠では、劔岳にガスがかかってから10分位でガスに包まれ地吹雪となる。

1月1日 沈殿

1月2日 北葛岳TS～蓮華岳～針ノ木峠TS

全員で針ノ木峠へ向かう。蓮華岳の登りは夏道と変わり無し。

岩稜帯を抜けるとウインドクラストの斜面、抜け出るところでスリップ、20mほど滑りストップ体勢をとり自力停止。

内藤、村田で針ノ木岳ヘルート工作に出る。

1月3日 沈殿 風強し

1月4日 沈殿

1月5日 TS～針ノ木岳アタック

やや風雪あり、フィックスは忠実に稜線通して

厳しい。

ピークで記念撮影、ガスと風で何も見えない。

蓮華岳東尾根隊（1年生主体下山隊）

1月6日 TS～蓮華岳～丸石尾根分岐～TS

縦走隊は丸石尾根分岐まで下山隊のサポート。

1月7日 TS～籠川渡渉～ホテル黒四＝松本

下山の2日間は思った以上に長時間の行動を強いられる。

縦走隊活動記録

1月6日 TS～丸石尾根分岐～TS

下山隊のサポート。テント付近の新雪は50cm以上。

1月7日 沈殿

8:00過ぎより無風、晴れとなるが、3つの低気圧の真中。

気温は相変わらず高い、好天が続く時間を考え晴沈とする。

1月8日 沈殿

本格的な吹き出し、午前1:00頃より16:00までラッセル。

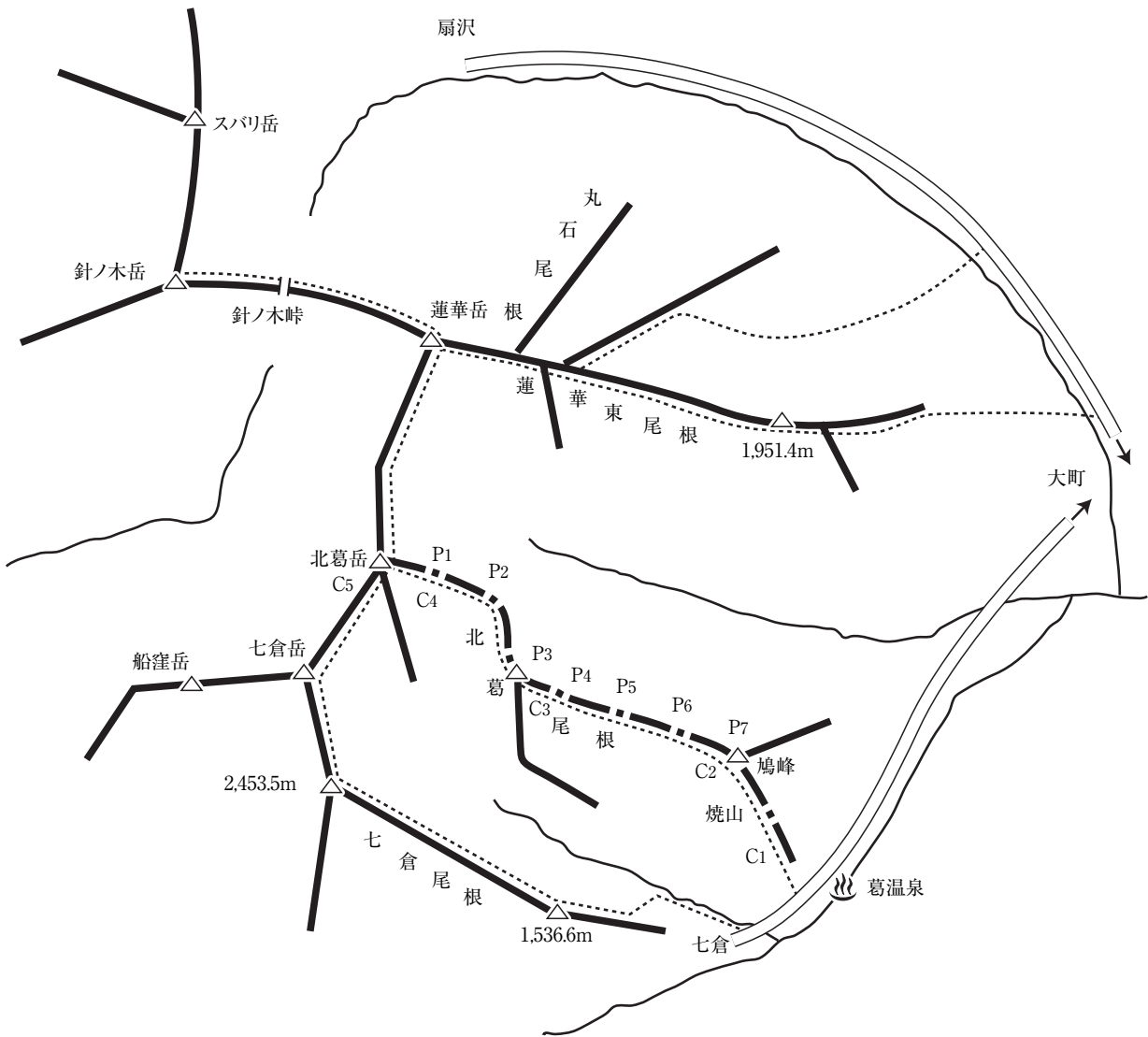
周りの雪はテントと同じ位の高さになる。小屋へ逃げ込む。

1月9日 沈殿

移動性高気圧に望みをかけ、小屋にて眠る。

1月10日 TS～蓮華岳～丸石尾根～支稜から無名沢～籠川吊り橋＝松本

石油が無くなる。体力及び今後の天候を考え下山とする。



蓮華岳・北葛岳概念図